



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2025/09/07

イスラエルが創造主に選ばれた理由 アブラハム契約は異邦人のためでもある！

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

^。

お元気ですか。高原剛一郎です。先日、このチャンネルのコメント欄を見ていると、「高原さん。髪型、カツラちゃいますか？」皆さん、ヅラではありません。地毛です！ウィッグ載せてません。地毛でございます。動くけど、地毛なんですよ。そんな細かいところまでよく見ていただいて感謝ですが、願わくば、内容の方をバッチリ聞いていただいたら感謝でございます。

さて、そのコメントの中に、こんな質問があったんですよ。

「神は、なぜユダヤ民族だけを選んだんですか？なぜ、日本民族じゃなくてユダヤ民族なんですか？」「神は全人類を創られた創造主のくせに、えこひいきするんですか？イスラエルだけ特別扱いするんですか？」

そうじゃないんですよ。ユダヤ民族は選ばれた民族／選びの民族ですが、それはユダヤ人だけを愛するためじゃないんです。ユダヤ人をとおして、それ以外の全ての民族に創造主を知らせるため、祝福を分け与えるためなんです。今日はそのことを説明します。

創世記 12 章

1 主はアブラム（後のアブラハム／ユダヤ人の先祖）に言われた。あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民（くにたみ）とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

3 わたしはあなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

地のすべての部族の中に、もちろん日本人も入っています。ユダヤ人以外の全人類に、真の創造主は唯一の神であるということをユダヤ民族をとおして知らせるために、いわば広告塔というか見本・サンプル・生きた実物教材としてユダヤ民族を選ばれたんですね。

これをもう少し分かりやすく説明します。今まで人類に猛威を振るった伝染病、いくつもありますね。ペスト。これで中世ヨーロッパの人口が激減しました。

そして天然痘。恐るべき病でした。天然痘で人類歴史が変わったんですよ。

日本だって例外じゃない。平城京は何で滅んだと思いますか？天然痘ですよ。

あの天下無敵のローマ帝国。天然痘でローマがガタガタになっている時にやられてしまったんです。インカ文明も天然痘で滅びました。

天然痘は恐ろしい病気で、人類史の流れすらも変えるような威力を発揮したんです。

でも、今世界人口 80 億人以上ですが、天然痘の人は一人もいません。完全制圧されたんですね。なので、今は研究機関の中にのみ、天然痘の菌があるんですね。

天然痘が次々に制圧されていく中で、最後の最後まで、この病気を克服できていなかった国が 6 つありました。そのうちの 4 つはアジアです。インド・バングラデシュ・パキスタン・ネパール。その中で特にインドが酷かった。中でもベンガル州（カルカッタの辺り）は最悪の状態でした。

この 4 か国には共通点があります。ヒンドゥー教信仰が非常に篤かったんです。それと天然痘と何の関係があるのか。ヒンドゥー教を篤く信じている人たちは、天然痘ワクチンを絶対に嫌ということまで断ったんです。効くと分かっているのに。

なぜかという、ヒンドゥー教の神様の中に天然痘の神様がおったから。それはシトラーマタという女神で、口バにまたがって、宝石と箒と不死の水を満たした壺を持っています。この女神が壺を傾けてその中身を注がれると、天然痘に罹ります。天然痘に罹るということは、シトラーマタ女神に愛されたというしるしなんです。良いことなんです。幸せなことなんです。天然痘に罹るのは幸せのしるしだと捉えたんですね。

ワクチンを打って天然痘に罹らないようにしてしまうと、シトラーマタの愛の贈り物を突き返すことになりますよね。シトラーマタは女神だから嫉妬深いんですよ。「よくも私の愛をソデにしたわね！」来世でどんな酷い目に遭うか分からない。現世でどんな酷いことが起こるか分からない。災難で報復されるのを心配して、ワクチンを断固拒否して来たんです。この問題を解決しないことには、天然痘は撲滅できない。

この問題に立ち向かったのは、なんと日本人ドクターですよ。蟻田 功（ありたいさお）さん（1926-2023）。彼はこの問題をどうやって解決したのか。インドのある小さな村に入り、天然痘ワクチンを、まずその村の人にだけ接種させました。インド全体で「NO！」と言われているので、ある特定の村を選んだ。

選ばれた方は、なぜそれを受けたのか？説得に応じたんです。どんな説得か？

「実は、天然痘ワクチンは牛の膿を使って出来たんですよ」ヒンドゥー教で、牛は聖なる動物です。だから、ヒンドゥー教の人たちは牛肉を絶対に食べません。神様の使いだから食べないんです。

「神の使いであるヒンドゥーの神聖な牛が提供したもので出来ているワクチンを受けたことで、同じヒンドゥーの神々がお怒りになると思います？聖なるものから出来たんですよ。聖なるものから出来たものを断るのは、おかしいんじゃないですか？」そしたら、村の長老が「そう言われてみればそうやな」と。長老が受けるなら、村の全員が右へならいして受けるんですよ。その結果、この村人たちで天然痘に罹患した人がドーンと減ったんです。

その後、祟りがあったのか。人の報復があったのか。すごい災難がこの村に次々起こったのか。何も起こりませんでした。それどころか、健康になって、この村だけ元気いっぱい。良いことしか起こらなかったんです。祝福だけが残ったんです。それを見た時、「あれ？天然痘ワクチンを受けても、ヒンドウの神々は怒らないんだ」この選ばれた小さな村だけが祝福されている様子をとおして、その他大勢の村々が「うちでもやってくれ」「うちでもやってくれ」と、一気に広がった。これが天然痘ワクチン普及の秘訣だったわけなんですね。

それと同じことがありました。なぜ神は、人類全体にご自分のことを語られなかったんでしょう？人類はほとんど、自分の民族神を持ってたんです。日本にも古事記で日本の神々がいるでしょ。そういうものがあるから、「外国の神様なんか要らない」と言ったんじゃないですか？

でも、ユダヤ民族を選ぶことによって「サンプルとして、ユダヤ民族をちょっと見ても」と。一番ちっさいけど。だってユダヤ民族って、75歳のおじいさんと65歳のおばあさんの2人しかいないんですよ。だけど、彼らが神のことばに従って進んで行った時に、そこから偉大な国民／ユダヤ民族が生まれてね。あれよあれよという間に、約束の地で一族を成すわけですよ。

で、不思議なことに、アブラハムに意地悪するとロクなこと起こらへん。アブラハムに親切にすると、次から次にええことが起こる。「何でこうなるんだろう。偶然で説明できないくらい、アブラハムに親切にしたら祝福が来るし、アブラハムを呪ったらのろわれるような…。待てよ。もしかしたら、アブラハムの神というのは本物の神で、我々が先祖から聞いて来た神々以上の本物の神ではないのか？」アブラハムの祝福の様子を見て、アブラハムが信じる神を信じるようになるんです。

これが歴史とともに、スケールがどんどん大きくなって行きます。エジプトに行って、ファラオがユダヤ人を虐めれば虐めるほど、結局、彼は紅海が割れた中で死んでいきましたよね。そして、かつて奴隷だったユダヤ人が、旧約聖書十戒を持ってものすごいモラル水準で約束の地に入って、ダビデ・ソロモン時代の黄金期の実を結ぶんです。「うわっ！旧約聖書に書いてあるとおりのことが起ってるやん！」

ということで、ユダヤ人が神からもらった約束が、ユダヤ人の歴史を通して次々文字通り実現して行くのを見たことで、ユダヤ人以外の人たちも「これはユダヤ人だけの神ではなく、全人類のルーツ／全人類の神じゃないんですか？」と目が開かれてくる。そのことのために、ユダヤ民族を選んだということなんです。

創世記 12 章

3 地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

